０４／１／４　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：主のみわざを期待する
聖書箇所：エレミヤ書　３３章３節

「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。」

新しい年を迎えて皆さんはいろいろな計画を立てられたことでしょう。この１年はこんなふうに過ごして行きたいと。私たちは新年を迎えるたびにそのような思いを持つわけですが、信仰者としてどうでしょう？「主に用いられる日を過ごして行きたい」、主の前に立つとき、無駄な日を過ごしてしまったと後悔することがないように、そのために正しく今日を生きて生きたいと、そのように思われる方はたくさんおられるでしょう。明日のことが分からない今、私たちに必要なことは、神がくださった今日というこの日を大切に生きることです。無駄にしないことです。神のみこころに従って今日生きることです。

主の前に価値ある人生を生きた人々は聖書の中に多く記されていますが、その中の一人の人物について、今日聖書のみことばから見て行きましょう。彼の生き様は私たちにとって大きな手本でありまた、模範です。この「エレミヤ書」の著者であるエレミヤ自身が今日私たちが学ぶ人物です。この３３：３のみことばは私たちに大きな励ましを与えてくれます。しかし、このみことばの意味をより深く理解しなければ、神がエレミヤに対して言われた真実を計り知ることはできません。

☆まず、エレミヤはどのような人物だったでしょう？

１．神に対して忠実であった

エレミヤ書１：４から見てみましょう。**「次のような主のことばが私にあった。:5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から、あなたを知り、あなたが腹から出る前から、あなたを聖別し、あなたを国々への預言者と定めていた。」**とこのように神はエレミヤに話しました。「あなたが生まれる前からわたしはあなたをこの大切な働きのために選んでいたのだ」と。６節を見ると **「そこで、私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧のとおり、私はまだ若くて、どう語っていいかわかりません。」**、このように彼は言います。エレミヤは神が与えてくださるこの任務の大きさに気づいています。そして、彼が言うのは「若すぎる、子どもだ」ということです。この当時、「若い」というのは４５歳までの人をこのように呼んでいるのです。エレミヤは当時、２０歳から２５歳くらいの青年であった思われます。私はまだ経験が浅くて、どのように語ればいいのか分からないというのです。このエレミヤ書を読んで行くと、神はエレミヤを様々な所に遣わします。そして、人々に対して、王に対して、神はこの国を滅ぼそうとしておられるというさばきのメッセージを語り続けていくのです。確かに、そのような人々が聞きたくないことを話すことには勇気がいります。エレミヤは人々に神の審判が下ることを語り続けたのです。神からさばきのメッセージを語るようにと言われたとき、エレミヤが躊躇したことはよく分かることです。最近の教会もそのようになりつつあります。天国の話をすれば人々は喜びます。しかし、地獄の話はしたくない、人々の感情を損ねてしまうからと。しかし、私たちがしっかり覚えるべきことは、エレミヤと神とのやりとりを見て教えれるように、神のことばを語り続けて行くことです。

神はエレミヤが恐れを抱いていることをご存じです。だから、７、８節でこのように言われます。**「すると、主は私に仰せられた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすどんな所へでも行き、わたしがあなたに命じるすべての事を語れ。:8 彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。――主の御告げ。――」**と、同じ１：１７でも**「 さあ、あなたは腰に帯を締め、立ち上がって、わたしがあなたに命じることをみな語れ。彼らの顔におびえるな。さもないと、わたしはあなたを彼らの面前で打ち砕く。」**とあります。神はエレミヤが大きな任務を受けて出て行こうとするときに、このような励ましのことばを掛けるのです。そして、エレミヤは神から与えられた務めに忠実にそのわざを果たして行くのです。

２．愛の人、神を愛し人を愛した

彼は神を愛するゆえに神の命令を守ろうとしました。新約聖書でもそのことを教えられています。Ⅰヨハネ５：３**「神を愛するとは、神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。」**と、感情的ではなく、本当の愛とは神の命令に従ってゆくことです。エレミヤはそのとおりの人でした。そして、彼は人々を愛していたのです。このユダの人々です。イスラエルの国は北と南に分裂し、北のイスラエル王国はすでに滅び、南のユダにいる人々にエレミヤは愛をもって何度も神のメッセージを語り続けるのです。エレミヤは徐々に、なぜ神がこの人々をさばこうとしておられるのかに気づいてゆくのです。ユダの人々の問題、その霊的状態に気づかされて行きます。この人々は確かに神のメッセージを聞き続けてきたけれど、神を無視して神に従っていないこと、神の教えより人間の教え、また神の守りよりもその

当時の周辺国であったエジプトやアッシリヤの助けをもらうことを優先したのです。彼らの心はまったく神から離れ切っていたのです。神に背を向けていたのです。神のメッセージ、憐れみ、救いに対して必要ないといい続けたのです。そのような人々にエレミヤは語り続けてゆくのです。実際、エレミヤ自身も嘲笑されいのちをねらわれる羽目になりました。それほどまでに人々の心は神から遠ざかっていたのです。しかし、そのような中にあってもエレミヤは人々に憐れみをもって語り続けて行くのです。神はそのとおりです。私たちに憐れみをもって接し続けてくださいました。だから、このような救いに与ることができたのです。神は忍耐をもって待っておられるのです。この国の状態はどうでしょう？クリスマスが済むと初詣です。なぜ、クリスマスは教会で過ごし、元旦には神でないものに手を合わせる人々を神は放って置かれるのでしょう？神は憐れみ深いお方だからです。神は一人でも多くの罪人が救いに与ることを忍耐をもって待っておられるのです。その忍耐ゆえに私たちは救われたのです。エレミヤは神がこのユダの人々を愛しておられることを知って、神が愛しておられるように彼は人々を愛するのです。

３．<u>忍耐の人</u>

私たちは彼の堅忍不抜の歩みに驚かされます。彼は４０年もの間、ユダを治めた５人の王の時代に預言者として働きました。ヨシュア王から始まりましたが、このヨシュア王以外の４人の王はすべて悪い王でした。４０年間エレミヤは神に忠実に働きましたが、一度として感謝の応答を得たことはありませんでした。彼は神の代弁者として一人ぼっちで立ち、誰からも顧みられず、屈辱を受け続けたのですが、その中にあって彼は勇敢に耐え忍んで行くのです。エレミヤのことは涙の預言者と呼ばれます。想像して見てください。皆さんもそのようなことを経験されているかもしれません。家族に救いのことを話しても全然耳を貸そうとしない、友人に対してすばらしい赦しがあることを話しても耳を傾けない、何年経っても…。職場にあって学校にあって家庭にあっても人々は心を開こうとしない、あなたは孤独かもしれません。エレミヤはこのユダという国にあってそういう日々を過ごしたのです。神を愛するゆえに神に忠実に従おうとしました。人を愛するゆえに神のメッセージを忍耐をもって愛をもって語り続けてきました。しかし彼はその中にあって人々から顧みられることなく屈辱を受け続けるのです。でも、彼は落胆することなく、忍耐強く使命を全うして行こうとしたのです。彼自身の神への愛がそうさせたのです。彼は神の召しをよく知っていたから、その召しに忠実に忍耐を持って歩み続けようとしたのです。

このようなエレミヤ像を私たちは今描くことができましたが、エレミヤはすばらしい信仰者です。私たちが模範とするような信仰者です。その信仰者に神からのテストが与えられました。エレミヤ書３２章を見ましょう。６－１５節です。**「そのとき、エレミヤは言った。「私に次のような主のことばがあった。:7 見よ。あなたのおじシャルムの子ハナムエルが、あなたのところに来て、『アナトテにある私の畑を買ってくれ。あなたには買い戻す権利があるのだから。』と言おう。:8 すると、主のことばのとおり、おじの子ハナムエルが私のところ、監視の庭に来て、私に言った。『どうか、ベニヤミンの地のアナトテにある私の畑を買ってください。あなたには所有権もあり、買い戻す権利もありますから、あなたが買い取ってください。』私は、それが主のことばであると知った。:9 そこで私は、おじの子ハナムエルから、アナトテにある畑を買い取り、彼に銀十七シェケルを払った。:10 すなわち、証書に署名し、それに封印し、証人を立て、はかりで銀を量り、:11 命令と規則に従って、封印された購入証書と、封印のない証書を取り、:12 おじの子ハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、監視の庭に座しているすべてのユダヤ人の前で、購入証書をマフセヤの子ネリヤの子バルクに渡し、:13 彼らの前で、バルクに命じて言った。:14 『イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。これらの証書、すなわち封印されたこの購入証書と、封印のない証書を取って、土の器の中に入れ、これを長い間、保存せよ。:15 まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。再びこの国で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるのだ。』と。」**。ここに記されていることは当時ではごく普通のことでした。エレミヤへの神のテストは、親類の土地を購入しなさいということでした。この「アナトテ」というのは町の名で、エルサレムの北約５キロ位の所でエレミヤの生地です。彼の従兄弟が彼の所に来て自分の土地を買ってほしいと言います。これはレビ記に記されていることです。レビ記２５：２５**「もし、あなたの兄弟が貧しくなり、その所有地を売ったなら、買い戻しの権利のある親類が来て、兄弟の売ったものを買い戻さなければならない。」**とこの通りを行なったのです。エレミヤは銀１７シェケルでその土地を買い取ります。この銀１７シェケルは非常に安い値段です。アブラハムが自分の妻サラが亡くなったときヘブロンで土地を購入します。彼はそのとき銀４００シェケルを支払っています。ですから、エレミヤは非常に安い値段で買ったのです。神に命じられた通りに購入しその証書を彼の友人であり書記であるバルクに渡したのです。これは当時の一般的な土地の売買です。

では、なぜこれがエレミヤにとっての信仰のテストなのでしょう？実はこのアナトテという町はすでにバビロンに支配されていました。この当時エルサレムはバビロンの王ネブカデネザルによって包囲されていました。バビロンによる包囲は紀元前５８８年に始まりました。そして、この出来事は３２：１

を見ると「ユダの王ゼデキヤの第１０年」と記されています。これは紀元前の５８７年です。ですから、エルサレムはバビロンに包囲され続けて１年以上経っていたのです。そうすると、恐らく食料も不足して来ていたのでしょう。そのためにエレミヤの従兄弟は土地を買ってほしいと言って来たのでしょう。この土地はすでにバビロンに占領されていたのです。これがカギです。バビロンに占領された土地を買ってどうなるのでしょう？エレミヤは自分のものになる保障のない土地を買うことになったのです。たとえ銀１７シェケルという安い値であったとしても…。これが神のテストでした。３２：１５を見ましょう。**「まことに、イスラエルの神、万軍の主は、こう仰せられる。再びこの国で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるのだ。』と。」**。神がこのように言われたというのです。確かにエルサレムは今バビロンに包囲され、このユダは必ず滅びるだろうけれど、必ず神はバビロンの手から解放されると。そのことをエレミヤの口を通して語っているのです。

ところが、１６節を見ると**「私は、購入証書をネリヤの子バルクに渡して後、主に祈って言った。」**とエレミヤの祈りがあります。続いて、**「:17 「ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。あなたには何一つできないことはありません。:18 あなたは、恵みを千代にまで施し、先祖の咎をその後の子らのふところに報いる方、偉大な力強い神、その名は万軍の主です。:19 おもんぱかりは大きく、みわざは力があり、御目は人の子のすべての道に開いており、人それぞれの生き方にしたがい、行ないの結ぶ実にしたがって、すべてに報いをされます。:20 あなたは今日まで、エジプトの国で、イスラエルと、人の中で、しるしと不思議を行なわれ、ご自身の名を、今日のようにされました。:21 あなたはまた、御民イスラエルを、しるしと、不思議と、強い御手と、伸べた御腕と、大いなる恐れとをもって、エジプトの国から連れ出し、:22 あなたが彼らの先祖に与えると誓われたこの国、乳と蜜の流れる国を彼らに授けられました。:23 彼らは、そこに行って、これを所有しましたが、あなたの声に聞き従わず、あなたの律法に歩まず、あなたが彼らにせよと命じた事を何一つ行なわなかったので、あなたは彼らを、このようなあらゆるわざわいに会わせなさいました。」**と、エレミヤの祈りの内容が記されているのですが、それはすばらしい祈りです。エレミヤは自分の願い事などは何一つ祈っていません。彼は神を称えています。全能のお方であり、創造主であり、恵みに満ち溢れたお方だと。そして、神は必ず罪をさばかれる、全知のお方であり、報いをされる審判者であると神を誉め称えるのです。しかし、その後２４，２５節を見ると、**「:24 ご覧ください。この町を攻め取ろうとして、塁が築かれました。この町は、剣とききんと疫病のために、攻めているカルデヤ人の手に渡されようとしています。あなたの告げられた事は成就しました。ご覧のとおりです。:25 神、主よ。あなたはこの町がカルデヤ人の手に渡されようとしているのに、私に、『銀を払ってあの畑を買い、証人を立てよ。』と仰せられます。」**とあります。エレミヤの本音が出ているのです。エレミヤは神のメッセージを知っていました。必ずユダは滅ぼされる、神はユダの人々の罪を放ってはおかれない、さばきがくだされることを。同時に、またユダを必ず回復されるということも知っていました。そして、神がどのようなお方かも知っていました。ところが彼には理解できないことを神から命じられたのです。なぜ、自分のものにならない土地を購入せよと言われるのかと。これは神への疑いではありません。疑問だったのです。彼は神のみこころが分からなかったのです。そこで彼は神の前に悟りを求めるのです。

２６－４４節に主のことばがあります。**「:26 エレミヤに次のような主のことばがあった。:27 「見よ。わたしは、すべての肉なる者の神、主である。わたしにとってできないことが一つでもあろうか。」、:28 「それゆえ、主はこう仰せられる。見よ。わたしはこの町を、カルデヤ人の手と、バビロンの王ネブカデレザルの手に渡す。彼はこれを取ろう。:29 また、この町を攻めているカルデヤ人は、来て、この町に火をつけて焼く。また、人々が屋上でバアルに香をたき、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こしたその家々にも火をつけて焼く。:30 なぜなら、イスラエルの子らとユダの子らは、若いころから、わたしの目の前に悪のみを行ない、イスラエルの子らは、その手のわざをもってわたしの怒りを引き起こすのみであったからだ。――主の御告げ。――:31 この町は、建てられた日から今日まで、わたしの怒りと憤りを引き起こしてきたので、わたしはこれをわたしの顔の前から取り除く。:32 それは、イスラエルの子らとユダの子らが、すなわち彼ら自身と、その王、首長、祭司、預言者が、またユダの人もエルサレムの住民も、わたしの怒りを引き起こすために行なった、すべての悪のゆえである。:33 彼らはわたしに、顔ではなくて背を向け、わたしがしきりに彼らに教えるが、聞いて懲らしめを受ける者もなく、:34 わたしの名がつけられている宮に忌むべき物を置いて、これを汚し、:35 わたしが命じもせず、心に思い浮かべもしなかったことだが、彼らはモレクのために自分の息子、娘をささげて、この忌みきらうべきことを行なうために、ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、ユダを迷わせた。」、:36 それゆえ、今、イスラエルの神、主は、あなたがたが、「剣とききんと疫病により、バビロンの王の手に渡される。」と言っているこの町について、こう仰せられる。:37 「見よ。わたしは、わたしの怒りと、憤りと、激怒とをもって散らしたすべての国々から彼らを集め、この所に帰らせ、安らかに住まわせる。:38 彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。:39 わたしは、いつもわたしを恐れさせるため、彼らと彼らの後の子らの幸福のために、彼らに一つの心と一つの道を与え、:40 わたしが彼らから離れず、彼らを幸福にするため、彼らととこしえの契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないようにわたしに対する恐れを彼らの心に与える。:41 わたしは彼らを幸福にして、彼らをわたしの喜びとし、真実をもって、心を尽くし思いを尽くして、彼らをこの国に植えよう。」:42 まこ**

とに、主はこう仰せられる。「わたしがこの大きなわざわいをみな、この民にもたらしたように、わたしが彼らに語っている幸福もみな、わたしが彼らにもたらす。:43 あなたがたが、『この地は荒れ果てて、人間も家畜もいなくなり、カルデヤ人の手に渡される。』と言っているこの国で、再び畑が買われるようになる。:44 ベニヤミンの地でも、エルサレム近郊でも、ユダの町々でも、山地の町々でも、低地の町々でも、ネゲブの町々でも、銀で畑が買われ、証書に署名し、封印し、証人を立てるようになる。それは、わたしが彼らの捕われ人を帰らせるからだ。——主の御告げ。——」

これは１７節のエレミヤのことば**「ああ、神、主よ。まことに、あなたは大きな力と、伸ばした御腕とをもって天と地を造られました。あなたには何一つできないことはありません。」**に対する神の応答です。わたしにとってできないことは何一つない全能の神だということを明らかにしたのです。そして、２８－３６節にはなぜユダがさばかれるのかが書かれています。３７－４４節を見るとその後ユダは回復されるのだとあります。これはもうすでにエレミヤが聞いてきたメッセージですが、再びそのメッセージを神は告げるのです。４２節**「まことに、主はこう仰せられる。「わたしがこの大きなわざわいをみな、この民にもたらしたように、わたしが彼らに語っている幸福もみな、わたしが彼らにもたらす。」**と。

これまでのことを整理するとこうなります。神はエレミヤに命令を与えました。あなたの生まれ故郷のあなたの従兄弟が所有している土地を買いなさいと。エレミヤは神に対する知識をもっており、神に忠実に歩んでいましたが、一つだけ疑問が出ました。全能の神がどうしてバビロンに占領された土地を買いなさいと言われるのか、買う意味があるのかと。神は答えられます。「エレミヤよ、わたしはどんなことでもできる神だ、約束したようにユダは必ず滅びるけれど、必ず回復する、そのときに土地はもう一度売買されるようになる」と。つまり、このテストというのは、エレミヤが信じてきたこと、教えてきたこと、語ってきたことを彼自身がほんとうに信じ信頼できるかどうかというテストだったのです。語ることはいくらでもできます。問題は信じて実践できるかどうかです。いくら知っていてもそれが応用されなければ、実際の生活で生かされなければまったく無力です。

すばらしい信仰者であるエレミヤに神は、「あなたは正しいことを信じ、語ってきたが、それをあなたがどうして？と思うような状況にあってもその通り信頼してみなさい」というテストを与えられたのです。どのような論理を用いても理解できないことであっても、神のいわれることに信頼できるかというテストです。これを通して私たちが学ぶべきことは、私たちの信仰の力はどこにあるかです。何度も学んできたように、私たちの生活が変わって行くカギは真実を知ることです。知って、覚えるだけでない、それを実践することです。それをしなければ神の力は私を通して現われないのです。話を聞いただけではその生活は変わって来ないのです。みことばの実践、そこに力があるのです。神が教えてくださることを神の助けによってさせてくださいと願い行なうとき私たちの生活は変わってくるのです。

エレミヤがここで新たに教えられていること、このような立派な信仰者が神から教えられたことは何か、「語っていることを実践しなさい」です。あくまで神を信頼することを教えられているのです。

３３章から見ると１節、**「エレミヤがまだ監視の庭に閉じ込められていたとき、再びエレミヤに次のような主のことばがあった。」**とあります。「監視の庭」、王宮の中に囚人たちのための場所があったのでしょう。３７章をみるとエレミヤが捕らえられた様子が記されています。バビロンがエルサレムを包囲していたとき、エジプトが攻め上ってきたことを聞いてバビロンの王は対抗しようと出て行きます。そのときその包囲がゆるんだのでエレミヤはベニヤミンの土地へと出て行くのですが、バビロンに投降しようとしているといって捕らえられ牢に入れられるのです。丸天井の地下牢に長い間入れられたのです。ユダの王ゼデキヤはこの戦いの結末を知ろうとしてエレミヤに尋ねます。エレミヤが告げたことは「あなたはバビロンの王の手に渡される」でした。エレミヤはこの後監視の庭に閉じ込められるのです。これは紀元前５８７年のことです。そのときの話がまたここに出てくるのです。エレミヤの祈りに対して、神は答えを与えられました。必ずさばきが下るけれど必ず回復される、だから、わたしの言ったことを信じなさいと。

そして、３３：２**「地を造られた主、それを形造って確立させた主、その名は主である方がこう仰せられる。」**このみことばをヘブル語に訳すとこうなります。「これがヤーウェーのいわれることである。神はこの地を創造された。すなわち、地を形造り確立させたヤーウェー、ヤーウェーは彼の名である」と。このように神がエレミヤにお告げになるのです。この地、この世界はわたしが形造り、完成させたのだ、この自然界のすべてはわたしの手のみわざであるといわれるのです。私たちはそれを見たとき驚嘆します。そのすべてはそれをお造りになった方を証しているのです。神の力がそこに現われているのです。疑う余地はないのです。被造物のすべて、全宇宙も完璧な法則で保たれているのです。どんなに偉大な神かを私たちに教え続けてくれるのです。

ここで神はエレミヤに対して第２回目の応答をされるのです。そこでも同じようにご自分のご性質、つまりすべてを創造した神であることを明らかにされます。２節にある「**主**」は太文字で書かれています。これはヘブル語のヤーウェーということばです。神のお名前です。聖書の中にはエロヒムという神の名が使われている箇所が多くあります。これは力強い創造の神といった意味をもつ名です。ここで使われているヤーウェーは、旧約聖書の中では６８２６回出てきます。これは契約を守られるお方です。ですから、この２節で神がエレミヤに告げたことは「この地上のすべてを造ったのはわたしであり、わたしはヤーウェーである、これがわたしの名前である。つまり、わたしが約束したことは必ずそうなる」です。神が約束されたことは必ずそうなるのです。だからヤーウェーなのです。

そして３節、今日の主題聖句です。**「わたしを呼べ。そうすれば、わたしは、あなたに答え、あなたの知らない、理解を越えた大いなる事を、あなたに告げよう。」。**人間の思いを超越したことがら、神のくださる啓示によってのみ知ることのできることがら、どのように努力しても悟り得ることのないもの、それをあなたに教えようといわれるのです。ユダがこれからどうなっていくのか、わたしが教えようといわれるのです。必ずさばきが下ると。４，５節でまた神のさばきが下ることが語られます。**「まことにイスラエルの神、主は、曇と剣で引き倒されるこの町の家々と、ユダの王たちの家々について、こう仰せられる。:5 彼らはカルデヤ人と戦おうとして出て行くが、彼らはわたしの怒りと憤りによって打ち殺されたしかばねをその家々に満たす。それは、彼らのすべての悪のために、わたしがこの町から顔を隠したからだ。」**、神は人間の罪に対してさばきを下されるのだと。一人一人を見ておられる神はその罪に応じてさばかれる、これは今の私たちにも同じことです。同じメッセージが新約聖書にも出てきます。人間の罪は必ず神の前にさばかれるのです。それを神はここでも警告したのです。そして、６－１３節に再び回復されることが書かれています。さばきは一時的であり、その後に再び神は癒しを与えられるのだと。神は同じメッセージを繰り返しエレミヤに教えておられます。エレミヤ！これをあなたに告げるのは全能なる神、わたしだと。

もし私たちの人生に分からないことが起こったとき、どうして？ということが起こったとき、神の啓示はすべてこの聖書の中に記されていますから、このみことばによって悟るのです。それが完成された啓示であるゆえに、黙示録にあるように、そこに何ものをつけ加えても、また取り除いてもいけない、これが神のおことばだからです。バクスターという神学者はこのように言います。「人々は罪のために神が見えなくなると、自分たちの上に災難が降りかかることを、神が自分たちに対する関心を捨ててしまわれたこととして考える。しかし、エレミヤの場合のように神がはっきり見えているときは、進行中の事がらをその真の意味において見ることができるのだ。そして、災いそのものを神がその王座を捨てておられないことの証拠と見ることができるのである。」と。エレミヤに神が繰り返し教えられたこと、それはこの神は全能の方であり、唯一まことの神だということです。私たちが持つべき態度というのは、「神様、分からないことはあるけれども、あなたが神ゆえにそのことを信頼します。」です。それがエレミヤが学ぶべきレッスンでした。

この一年を始めるに当たって、神の前に無駄のない人生を、後悔のない人生を生きようと初めに話しましたが、それが皆さんの願いであることを心から願うものです。神は必要を満たすと約束してくださったのですから、私は神の言われたことを信じ期待しますという信仰です。主はみこころを成されると信じそのみわざを期待します、すべてを働かせて益となすといわれる神の約束を信じます、神は私を用いるといわれるその主の約束を信じそのみわざに期待します、とこのような信仰の実践が必要なのです。そして、自らを神に明け渡すことです。どうぞ、ここに私がいますから私を用いてくださいと。

このように生きるとき、私が生かされている目的を神が果たしてくださるのです。それが無駄のない生き方です。後悔のない生き方です。